



Sustainable Society Research (SSR) 2nd Year High School



2023年4月11日 SSR（高校2年生）授業「SSSの振り返り/お互いを知ろう」

資料：ワークシート 1-1

高校1年生で受講した「SSS(Sustainable Society Study)」からその学びを深めたいと希望する生徒たち6名がこの「SSR(Sustainable Society Research)」を受講します。このWWLプログラムでは高校1年生「Sustainable Society Study」から3年生「Sustainable Society Design」まで一貫して、「まちづくり」をテーマとし、グローバル・イシューを取り上げ、問題解決へのアプローチを行います。またさまざまな科目の教員が担当するチームティーチングも大きな特徴であり、本年度の「SSR」を担当するのは、教科もバックグラウンドも異なる、情報科の松野翔太教諭と英語科の山田ショーン教諭です。今日は、第1回目の講座です。



今日の講座

- ガイダンス
2つの目標（成果をアウトプット/ロジカルな思考と文章）
- 自己紹介
趣味や特技/将来の目標/なぜこの講座を選択したか/住んでみたい国や場所など
- SSSの振り返り
印象に残っていることや学べてよかったと思うこと
- アイディアを出すためのワーク
アイディア発想法の1つであるエクスカージョンの実践

この講座では、アカデミックスキル、課題解決のための方法論を身につけ、グループワーク、フィールドワークを通して、答えが1つでない問いに向き合う姿勢、「社会」をつくる一員であることの自覚をもって取り組んでほしいと考えています。SSSで学んだSDGs・社会・経済についての基礎知識もより深めていきます。6人というアットホームな講座で、SSRは1つのチームです。教員と生徒の距離も近くさまざまなことを話しやすい場となりそうです。

生徒たちの自己紹介から

住んだことのあるところ：アメリカ（ジョージア）、豊中
趣味：ダンス（ジャンルはガールズ）
将来やってみたい仕事：未定
SSR 受講理由：SSS を受講して街に興味を持てたこと
将来住んでみたいところ：豊中に住み続けたい（便利、充実した施設）

住んだことのあるところ：イギリス、ドイツ
趣味：テニス
将来やってみたい仕事：海外での仕事
SSR 受講理由：ヨーロッパの街を見直す機会、自分の経験も生かせると思ったから
将来住んでみたいところ：カナダ（大学院進学に興味がある）

住んだことのあるところ：ウィーン、シカゴ
趣味：ピアノ、音楽鑑賞
将来やってみたい仕事：語学力を活かして国際関係の仕事
SSR 受講理由：アウトプットが得意ではなくスキルアップしたいと思ったから
将来住んでみたいところ：ウィーン（コンパクトで整った住みよい環境）

住んだことのあるところ：日本国内（東京、西宮）
趣味：甘いもの好き、食べる
将来やってみたい仕事：情報デザイン
SSR 受講理由：SSS の自分の街紹介で代表に選ばれまちづくりやデザインなどにも興味を持ったから
将来住んでみたいところ：西宮に住み続けたい（便利、山も川もあり自然豊か）

住んだことのあるところ：タイ
趣味：ダンス、歌
将来やってみたい仕事：人がどう行動するか研究したい、語学力を活かしたい
SSR 受講理由：社会科の領域に興味があり、SSS がおもしろかったから
将来住んでみたいところ：枚方（便利、子育てのしやすさ）

このようにさまざまなバックグラウンドの生徒たち、また教員とで構成されているので、

それぞれの視点からの意見が集まります。自己紹介では、お互いの住んだ場所や興味のあることや趣味について、質問をしたり意見を言い合うなどして一気に距離が近くなりました。

教員の自己紹介から

松野翔太教諭

住んだことのあるところ：東京出身、京都、大阪

SSR では：自分も学びながら進めていきたい

自分のライフスタイルに合っている都市部が好き。最近は低消費電力設計に興味あり。

山田ショーン教諭

住んだことのあるところ：ミネソタ出身、ドイツ、トルコ、韓国、秋田など

SSR では：自分も勉強できると感じる。車社会に疑問をもっているので興味深い。

将来は京北町に移住を考えていて、農業や林業など日本の田舎の素晴らしさを守りたい。Raspberry Pi4 に興味があり。



アイデアを出すためのワークでは、文房具をテーマにアイデアを持ち寄りました。発想法は、分析モードと発想モードとに大きく分かれますが、今回のワークであるエクスカージョンは発想モードです。「たしかに！」と実際に欲しくなるような文具、走りながら使える、水中でも書ける、消しゴムかすが自然に集まるなど、生徒たちの想像力が活かされ楽しい取り組みとなりました。この続きは次回します。こういった問題解決の方法も用いながら、この講座でも取り上げる社会課題に対して皆でよい解決策を探っていけたらと考えています。

2023年4月18, 25日 SSR (高校2年生) 授業「SDGs #11 住み続けられるまちづくりを」

資料：ワークシート 1-2,1-3

第2回目のSSR講座です。前回の続きに取り組みます。



今日の講座

- アイディア発想ワーク (続き)
エクスカージョンの実践
- 3つのリソースについて
図書館/インターネット/参考文献
リスト
- SDGsを深める
SDGs#11 住み続けられるまち
づくりを

エクスカージョン (新しい筆記具) を用いて生徒たちから出たアイディアのシェア

- 1 テーマを決める
- 2 テーマとは別に何かカテゴリーを決めてリストを作る
- 3 それぞれの項目について特徴や印象を思い浮かべアイディアにつなげる

みかんの消しゴム
ぶどうの消しゴム
剥く！押し出す！

バドミントンの羽と
しても使えるペン
軽くて重心もよい！

リラックス文具
森、自然の香りでリラ
ックスできる文具！

クリップペン
練習箸のような力のない
人がホールドしやすい！

ほたるペン
暗いところで自然に
明るくなるペン！

本来は散歩や他のことをして
いるときにふと思いつくよう
な、リアルワールド・エクスカ
ージョンもアイディアが広が
ります。

情報を得るためのソース (information source)

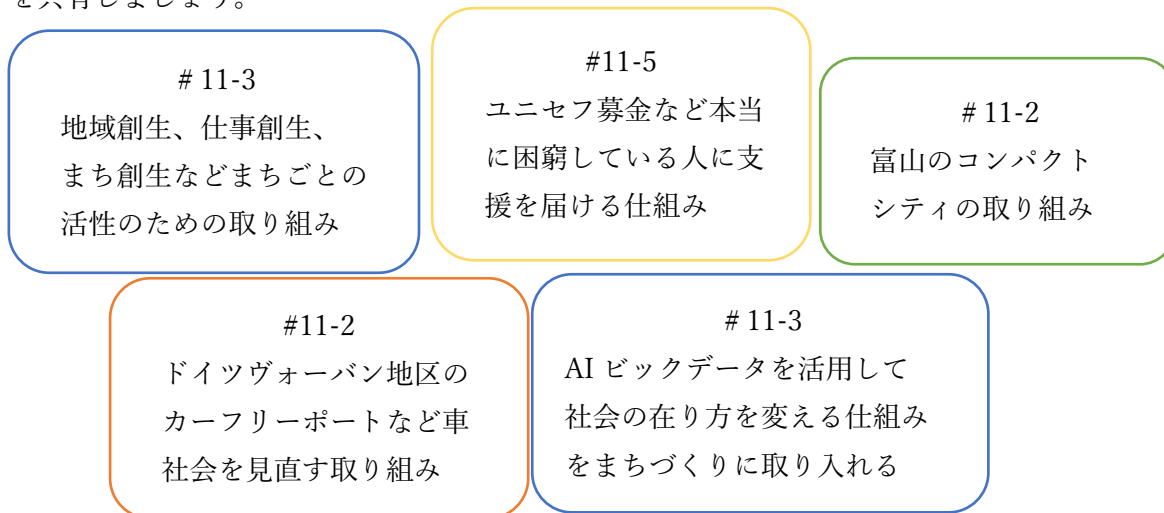
アカデミックな場面では、どこから情報を得るかということがとても重要です。適切な情報を得る上で入手元、発信源には注意が必要です。

Current/Authority/Accuracy/Purpose というキーワードをもとに説明を受けました。目標をはっきりさせることで必要な情報が明確になります。最近の ChatGPT の活用についても話題になりました。



SDGs # 11 住み続けられるまちづくりの 17 のターゲットについて

それぞれのターゲットにおいて、現代の社会/まちにおいて共感または疑問に感じることを共有しましょう。



目標 11.住み続けられるまちづくりを



この目標（ゴール）は、都市と人間の居住地を包摂的かつ安全、強靱なものにし持続可能な状態を目指します。

11-1	2030年までに、すべての人々の、適切、安全かつ安価な住宅及び基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する。
11-2	2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子ども、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、すべての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。
11-3	2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。
11-4	世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。
11-5	2030年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。
11-6	2030年までに、大気質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。
11-7	2030年までに、女性、子ども、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。
11-a	各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市

	周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する。
11-b	2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靱さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組 2015-2030 に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。
11-c	財政的及び技術的な支援などを通じて、後発開発途上国における現地の資材を用いた、持続可能かつ強靱（レジリエント）な建造物の整備を支援する。

(参考：<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/11-cities/>日本ユニセフ協会)

改めて1年生のSSSで学んだことを振り返って、国や地域の事例を思い返して、ターゲットに関連のある印象に残っていること、取り組みや新たに見つけたものなど意見を出し合いました。

11に関連するいくつかの書籍の紹介

- ・ヴァンソン藤井由美、宇都宮浄人『フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか』（学芸出版社、2016）
- ・松田雅央『環境先進国ドイツの今一緑とトラムの街カールスルーエから』（学芸出版社、2004年）
- ・平井太郎、松尾浩一郎、山口恵子『地域・都市の社会学—実感から問いを深める理論と方法』（有斐閣、2022年）



今回も活発な意見交換ができました。これまで学んだことを振り返ると同時に、これからのより深く学ぶためのリサーチに向けてどのように効率よく、また正確に情報を取るかというお話を聞きました。松野教諭は情報科の立場から、山田教諭は大学での研究者の経験から大変参考になるアドバイスをもらいました。予定している国会図書館へのフィールドワークではさらに実践に向けて意識が高まりそうです。

2023年5月2日 SSR（高校2年生）授業「エクスカーション/まちの見方」

資料：ワークシート 1-4

今日は以前に取り組んだエクスカーションで別の方法、分析モード「さくらんぼ分割法」を試してみました。またまちづくりについてのヒントとなる文献の紹介もありました。

今日の講座

- アイディアを出すためのワーク（分析モード）
エクスカーションの実践
- SDGs を深める
SDGs#11 住み続けられるまちづくりを（続き）
- 文献の紹介
「風の道と都市気候形成」



分析モードのエクスカーション（新しい ICT 機器）を用いてアイディアを出し合う

さくらんぼ分割法は、要素に分割していき分解後のパーツを組み合わせて新しい発想を得ようという手法です。

1 例えば、新しい ICT 機器について考えると

懐中電灯→懐中/電灯

スマートフォン→高度な処理技術兼ね備えた/コミュニケーション機器に分解するとします。言葉をそのまま区切っても、柔軟に考えても OK。

2 表現した 2 語について、それぞれ属性（≡特徴）を考え 2 つの属性に分割する。

高度な情報処理機器→既存の電子機器の機能を持つ/AI が備わっている

3 それぞれの属性をさらに 2 つの属性に分割、これを十分だと思うまで繰り返す。

4 分割してできたたくさんの属性から好きなように組み合わせて新しいアイディアを作る。アイディアが湧いてきそうです！

アイディアを出す場合には「新規性」「有用性」を意識しましょう。

固定化された見方を属性への分解を繰り返すことで解体し、自由な発想を可能にするための環境を作り出すための方法です。

『風の道と都市気候形成』成田健一（平成 18 年日本風工学会誌）

街歩きをするときに、過去の痕跡を気に掛けてみるという話がありましたが、今期は現代的な都市計画に関しての文献を紹介します。これからの街を見る視点が増えると同時に、

「風の道」は私たちが直面するヒートアイランド緩和施策として注目されているので生徒たちはとても興味深く学ぶことができました。

2023年5月9,16日 SSR (高校2年生) 授業「文章を正確に理解する/まち歩き発表」

資料：ワークシート 1-5,1-6

前回の授業までで、問題解決のエクスカーションの実践、そして街の見方についての取り組みがありました。家の外にでかけるときに何気なく通っている場所でも、見方を変えると発見があるかもしれません。生徒たちには連休に向けて、歩いてみた際の気づきを写真とともに交えてまとめてみるということが宿題になりました。

今日の講座

- 精読について
アカデミックス・スキルズ
- 読解力調査
問題を解いてみる
- 街歩き発表
街歩きの発見をシェアしよう



文を読む～精読の考え方～

『アカデミック・スキルズ 第2版—大学生のための知的技法入門』（2012年慶応義塾大学出版）を参考にします。書いてあることを正しく理解することはベースとなるスキルであり、それができて噛み合った初めて反論ができます。これからは実際に参考文献となる本を読み、内容を見極める経験を積みたいと考えています。音読、黙読、熟読など「読む」にもいろいろな種類がありますが、ここでは「精読」にフォーカスをあてます。

読解力調査

実際に質問に答えて自分自身の読解力を診断してみました。中には正解率の低い問題もあり、じっくり文章を読み込むということについて改めて考える機会となりました。

街歩きの発見をシェアしよう

- ・ 宇治川の淀小橋 鳥羽伏見の戦いで失われる
- ・ 戊辰戦争の石碑 戦争の発端となった場所
- ・ 西大路駅以前と現在の人の流れの変化
- ・ 福島の古墳池を埋め立て
- ・ 平城京跡 階段・建物
- ・ 平安時代の海岸線

見方を変えらるともっと新しい発見があることに気づき、またさまざまな発見から歴史やその形状になっている意味など再認識したようでした。その次には、「なぜ？」という視点を持つとより理解が深まるというアドバイスがありました。



2023年5月30日 SSR（高校2年生）授業「精読の課題の相互評価/国会図書館について」

資料：ワークシート 1-6,1-7

今回の講座は、以前に課題として出された「精読」について、要約をまとめ、お互いに相互評価を行うことからスタート。その後は国会図書館へのフィールドワークに向けた事前学習を行いました。



今日の講座

- 精読
要約の課題の相互評価
- 「輪講」「輪読」の進め方
みんなで読む
- 国会図書館について学ぶ
リサーチの準備として

精読

課題図書：『アカデミック・スキルズ 第2版——大学生のための知的技法』（2019年慶応義塾大学出版）

生徒たちは各自精読し、それぞれ要約をまとめました。お互いに読み、適切に要約できているかについても相互評価しました。

～評価の留意点～

- 誤字脱字のほか、語句や文章に誤りが含まれていないか
- 本文中にないことを書いてしまっていないか
- 論理構造が変わってしまっていないか
- 適切な段落分けや本文の内容に沿った接続詞など使用し読みやすく工夫されているか

みんなで読む「輪講」「輪読」の進め方

課題図書：平井太郎他著『地域・都市の社会学 実感から問いを深める理論と方法』（2022年有斐閣ストゥディア）まちづくりについての専門書を読むにあたり、輪読を行います。

輪講とは、1つの専門書を複数人が輪番で、各自割り当てられた範囲を精読、入念に読み解いておいて皆の前で発表し、全員で理解を深めていく本の読み方です。本の内容を理解するにあたり発表者と聞き手のそれぞれに役割があり、この授業ではさらに皆で疑問点や問題点をディスカッションすることで全員の理解をより深めるとともに、関心を広げることを目的とします。

図書館について知ろう

そもそも図書館とは、そして次回フィールドワークに行く国会図書館について改めて学びます。周りにある身近な図書館はほぼ公立ですが、国会図書館は国立です。それぞれ役割が異なる部分があり、国会図書館の使命と役割は国立国会図書館法に定められていて、国会活動の補佐という部分が大きいことがわかります。

国会図書館の役割

- 国会活動の補佐
- 資料・情報の収集・整理・保存
- 情報資源の利用提供
- 各種機関との連携協力



国内のあらゆる出版物を利用者が閲覧できる（そのために納本制度がある）
高校生のうちはデジタルアーカイブを
Webを通して閲覧可能

国会図書館関西館

所在地：〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台 8-1-3

本館と新館は東京にありますが、恵まれていることに、2002年に完成した関西館は本校が所在する京田辺市に隣接する京都府相楽郡精華町にあります。年々増加する資料を収蔵するための大容量書庫と、電子図書館機能を備えています。

生徒たちは、講座で初めてとなるフィールドワークとなる国会図書館訪問を楽しみにしています。今後リサーチを進めるにあたって、このような施設が間近にあることを再認識し、さらに活用する方法について知ることがはとて有意義なことです。

2023年6月6日 SSR（高校2年生）授業「国会図書館関西館フィールドワーク」

資料：ワークシート 1-8

今日は、国会図書館関西館にフィールドワークに行きました。

あいにくの雨でしたが、車で約20分、国会図書館前ではその大きさに圧倒されました。図書館では案内の村手様が出迎えてくださいました。



関西館のできた理由

納本制度による本の収集に加え、決してその本は廃棄されないのも、新たな大規模な書庫スペースが必要になったこと。それに加えて電子化し遠隔サービスを提供する拠点として現代的な図書館サービスの要にもなっているそうです。

関西館の書庫

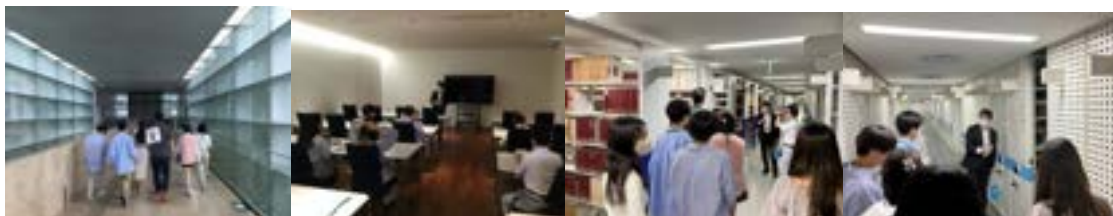
閲覧棟地下2階～地下4階と別棟の書庫棟（7階建）があり、関西館だけでも1800万点が所蔵されているそうです。地下に広がる広大なスペースの上には芝生とガラスでできたギザギザののこぎり屋根があり、これはデザイン性が優れているだけでなく本来の目的である本を太陽の光から守りつつ自然光を取り込むためのものでもあるそうです。

書庫スペース

大きなフロアの閲覧室などをご説明いただいた後で、いよいよ普段は入れない書庫スペースをご案内いただきました。書庫スペースでは菌をいれないために靴にはカバーをはめます。もちろん書籍に触ることはできません。サッカーフィールドと同じ面積があるフロアでは、迷子にならないために書庫の札が北に行くほど寒色系に、南に行くほど暖色系に、また東に行くほど濃い色合い、西に行くほど薄い色合いに配置されているそうです。また生徒たちが関心を持っていたのが、自動書庫で資料の出納作業を機械化した書庫です。大きな7台の自動コンテナが作業にあたり、140万冊収納可能なスペースを動き、書籍の収納や請求といった要望に応じています。その動きのスムーズさに皆見入っていました。

書庫棟

書庫棟は新たに増える資料を保存するための別棟です。温度や湿度を適正に保つためのバッファゾーンと呼ばれる構造に加え、地震による資料の落下防止や火災の際の窒素ガスでの消火など資料を守るための最新の設備が備わっていることを実感することができました。



2023年6月20日、7月4日 SSR（高校2年生）授業「輪読の発表」

資料：ワークシート 1-9,1-10

2回に分けて、まちづくりに関して書かれた専門書『地域・都市の社会学 実感から問いを深める理論と方法』を輪読形式で発表します。発表の後には皆で疑問点や問題点などをディスカッションすることで、全員で理解を深めていきます。

今日の講座

- 「輪読」の発表
- 夏休みの課題の説明



輪読の発表

- 輪講では生徒ひとりひとりが担当する章を精読して理解した内容を要約し、ハンドアウトを用意します。ハンドアウトには課題図書に書いてあることと自身の推測や判断は明確に分けないといけません。また文章を引用する場合は適切な形で引用することが必要です。
- 聞き手には、的確に質問をするという聴衆としての重要な役割があります。一冊の本の内容を共有し、わからない点などを積極的に質問し、皆で考えてディスカッションをすることにより、全員の理解を深め、関心を広げていきます。最後にひとりひとりの発表に対して良かったところや改善したらもっと良くなることをコメントシートにフィードバックします。
- 課題図書：

『地域・都市の社会学 — 実感から問いを深める理論と方法』(2022年4月有斐閣)

平井 太郎, 松尾 浩一郎, 山口 恵子 / 著



第I部 地域を実感する

- 第1章 地域と都市はどのように実感されるか—「距離」への敏感さ
- 第2章 地域・都市はどのように形づくられたか—人びとの空間的共
感を捉える視点
- 第3章 空間と場所の問い方—マクロ・ミクロからのアプローチ

第II部 地域に集まる力/世界に広がる力

- 第4章 グローバル化とどのように向き合うのか—再生産領域への
労働移動から考える

第5章 ナショナルなものや地域・都市—〈中心〉と〈周辺〉, その先にあるもの

第6章 ローカル・トラックとは何か—進学・就職をめぐる理想と現実

第III部 地域・都市で生まれる社会

- 第7章 都市の公共空間—人の集まる場所のしくみ
- 第8章 都市の不平等はどのように進行しているのか—異質性と排除が結びつくとき
- 第9章 コミュニティはどこから来てどこへ行くのか—語りのダイナミズム

第IV部 地域・都市のこれから

- 第10章 「限界集落」の「限界」はどう乗り越えられるか—ここに生きる意味の承認
- 第11章 地域・都市はどこへ行くべきか—地域への問いと社会学的想像力
- 第12章 創造と継承—都市の未来, 都市の歴史

〈輪講を終えて〉

授業では先生や生徒からコメントをもらいながら、地域や都市について考える貴重な時間となりました。今回の輪読、輪講を通じて得られたことをこれからの探究や発表につなげていきます。

次の講座は夏休み明けです。夏休みの課題として、地域の公園や公共施設について調べたり、自分の住む地域での課題、政府や自治体による将来推計や計画・構想などについて調べていきます。

2023年9月5日 SSR（高校2年生）授業「同志社大学ラーネッド記念図書館見学」

資料： 2-01

2学期がはじまり第1回目のSSR講座です。2学期はレポートやリサーチブックを作成するための文献調査やアカデミック・スキルを高めるワークやトレーニングをします。「まちづくり」について多くの文献に触れ、様々な事例を研究して知識を深めていきます。

今日の講座

- 2学期の授業・課題の説明
- 大学図書館（ラーネッド記念図書館）の見学・図書探し



【9月の課題】

「まちづくり」に関係がある図書を探し、1学期で実践した輪読の発表を参考に本を要約します。「主題」「方法」「意義/効果」「限界」の4つの内容を意識してレポートにまとめます。レポート作成は、しっかりとした文章で論拠とともに説明をするトレーニングです。

- 主題 : どのような問題意識から書かれたか、どのような問いに答えようとして書かれたか
- 方法 : その主題に応えるために、どのようにアプローチしているか
- 意義/効果 : この文献で生産された知識は、社会にどのように影響（貢献）し得るか
- 限界 : 扱った主題に対して、この文献でカバーできない範囲や、論理的な弱点はあるか

今日は同志社大学のラーネット記念図書館まで足を運び、館内を見学し、レポート作成のために参考にする「まちづくり」に関連のある図書を探しました。本がみつかったら取り組むテーマを意識しながら読み、上の4つの内容を意識しながら本の要約に取り組みましょう。



2023年9月12日 SSR (高校2年生) 授業「アカデミックスキルズ入門～論理の技術編～」

資料：アカデミックスキルズ入門 ～論理の技術編～

今日の講座

- 講義「アカデミックスキルズ入門～論理の技術編～」
- 個人レポートの取り組み



今日はレポートを書くために必要なスキルである「論理的な文章の書き方」について松野教諭より講義を聞きます。私たちは日々予測をたて、あらゆることを推測しながら1日を送っています。その予測や推測（推論）には3つのパターンがあることを学び、普段の考え方を振り返りました。

【アカデミックスキルズ入門～論理の技術編～】

文章を書くときに、きちんとした論理を使っているか、あるいはどの論理を使っているか。また文章を読むときに、著者はどの論理を使って書いているかを考えます。

論理的な推論の種類

- 演繹(Deduction)・・・「前提」からそれに含まれる確かな「結論」を導く推論
妥当な演繹は「前提が正しければ」結論も正しい。正しい結論を導くために、その前提(根拠)に十分な裏付けがなされているか、また前提に対する反論を考えないといけない。
- 帰納(Induction)・・・小さな「事例」から大きな「法則」を導く推論
常に正しいことは保障されていないが、元の情報より大きな、すなわち新しい情報が得られる。主張の信頼性は100%ではないが、根拠がないよりは信頼できる。もとの証拠が正しいか、帰納的な論理に対する反論ができる。
- 仮説形成(Abduction)・・・「事象」から「仮説」を導く推論
観察された個別の「事象」から最もよくそれらを説明する「仮説」を導く。主張の信頼性は100%ではないが、根拠がないよりははるかに信頼がおける。別の仮説を立て、いろんな証拠などを突き合わせて反論ができる。

論理の形としては正しいが、結論がおそらく正しくないということもあります。みなさんがレポートを書く時には、自分の論理の形がきちんとしているか、根拠は正しく十分か注意をして書きましょう。

2023年9月26日 SSR(高校2年生)授業 “Academic vs Popular Sources”

資料: Academic vs. Popular Sources

今日は山田教諭による“Academic vs Popular Sources”の講義を聞きます。私たちが日々接する情報や文献にはどのような種類のものがあるかを知り、レポートの作成にあたってできるだけ多くの学術文献や情報に触れ、慣れていくことの大切さを学びます。

今日の講座

- 講義
“Academic vs. Popular Sources”
- 個人レポートの取り組み



【Academic と Popular Sources の違いは何？】

● Academic/Scholarly Source

- ・ 本（ノンフィクション）、査読済みの論文、学術ジャーナル、データベースなどの文献
- ・ 主に教育が目的の文献。
- ・ 学者・研究者などの専門家が専門家のために書いたもの
- ・ 独自（オリジナル）の研究結果や研究の論評など
- ・ 専門用語、学術用語
- ・ 参考文献はすべて記載。参考書目、引用リストなど。
- ・ 出版社は通常は学術出版社または非営利組織による
- ・ 写真は少なく、ぎっしり文章で埋められていることが多い。広告なし。
- ・ 具体例： American Journal of Education, American Journal of Sociology など



● Popular Sources

- ・ 本、新聞、雑誌、ウェブサイトなど
- ・ 一般の読者向けの情報源
- ・ 主にエンタメ、周知、説得をするための情報
- ・ 最新イベントや一般的な関心が集まる記事
- ・ スタッフ記者、ジャーナリスト、フリーランスの記者が記事を書く。
- ・ 読者をひきつけるための簡単で興味を惹く用語
- ・ 明記なく専門家の名前や Statistics が引用される場合がある
- ・ 営利組織による出版
- ・ 写真が多く、カラフルであることが多い。広告がある。
- ・ 具体例： The New York Times, TIME, People, など

私たちは日常生活の中で Popular Sources による情報に接する機会が多くありますが、SSR のレポート作成を進めていく上では Academic な情報源を意識的に選ぶことが大切です。これから学術的な文献に多く触れて、レポート作成に役立てていきましょう。

2023年10月3,10日 SSR（高校2年生）授業「アメリカ訪問都市のまち紹介」

今日は、松野教諭が出張で訪れたアメリカのまちについて、印象に残ったまちの様子や特長について写真を交えて紹介します。

今日の講座

- 「アメリカ訪問都市のまち紹介」
- 10月の課題の取り組み



松野教諭 「アメリカ訪問都市のまち紹介」

訪問先はロサンゼルス、サンタクララ、ポートランド、デトロイトです。車社会と言われているアメリカですが、ポートランドではヨーロッパからの移住者が多く、トラムなどの交通手段が整備されて、だれもが住みやすいまちになっていることがわかりました。それぞれの都市の特長を見て感じたこと、知ったことをこれから取り組む課題にも反映できるといいます。

● ロサンゼルス



かつてトヨタの工場があり、トヨタ車が多く、道幅が広い印象。

● サンタクララ



Apple 本社があり、Apple Park が見学できる。

● ポートランド



・路面電車のシステムが整備され、トラムで移動が可能。自転車の移動もみられる。

・ヨーロッパからの移住者が多く、白人比率が高い。COVID-19 後、ホームレスが増えてしまったが、住みよいまちにした結果、ホームレスも集まってきたと考えられる。



ポートランド州立大学 Millar Library。半円形のガラス張りになった洗練されたデザインの図書館



図書館で地方紙”Beaverton Enterprise”のMicrofilm を見ることができる。



● デトロイト

車がないと移動しにくい街

【10月の課題】

持続可能性および/または都市開発 (Sustainable and/or Urban Development) に関連したトピックを選び、それについてリサーチをします。これまでに習得したリサーチスキルやアカデミックスキルを活かして様々な文献に触れ、論点を明確にし、論拠を立ててロジックにレポートを組み立て、仕上げます。

トピックの例)

現代および歴史的なランドスケープの例、エコフレンドリーな開発、コミュニティの力の役割、都市のエコロジー&持続可能性など

2023年10月24日 SSR (高校2年生) 授業 “Bloom’s Taxonomy”

資料： Bloom’s Taxonomy

今日は山田ショーン教諭より Bloom’s Taxonomy についてレクチャーを受けます。

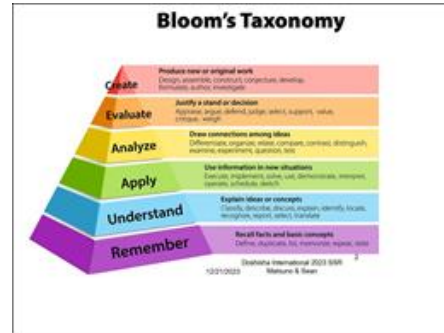
今日の講座

- 講義 “Bloom’s Taxonomy”
- 個人レポートの取り組み



【 Bloom's Taxonomy 】

Bloom's Taxonomy とはなんですか。あまり聞きなれない言葉です。これは教育の目標を分類するための枠組みで、学習をする者が知識やスキルを習得する過程を図に示す6つの段階に分類しています。



ピラミッドの下位の段階を経て私たちは上位の Create の段階に到達していきます。私たちは学習するにあたって、常にどこかの段階の中で行動を起こしていることがわかります。“Where do you think we are now in the educational career?” 先生は生徒に質問を投げかけ、私たちの学習が今どの段階にあてはまるかを考えます。



実際にリサーチを進めるにあたって文献を選んだり、先生やクラスメイトと意見交換をしたり、レポートを評価するなど、それぞれの過程において私たちは段階の中のアクションや問いかけを意識し、それを含めることが大切であることを認識できました。

学習をすることについて学習することは、生徒たちにとって新鮮でした。これからのレポート作成に役立ててもらいたいと思います。

2023年11月7日 SSR (高校2年生) 授業「参考文献の書き方」

WS 2-03

今日は松野教諭より、レポートを書く上での基礎知識「参考文献の役割と書き方」について学びます。

今日の講座

- 講義「参考文献の役割と書き方」
- 個人レポートの取り組み



【参考文献の書き方】

レポートを書く際に必要となる参考文献や引用文献の記載方法には様々な方式やスタイルがあることがわかりました。

参考文献の表し方：

- ・ハーバード方式：著者名・発行年方式
- ・バンクーバー方式：引用順方式

参考文献の形式：

- ・APA スタイル
- ・MLA スタイル
- ・シカゴスタイル
- ・IEEE スタイル 等

人文科学・社会科学分野、電気・情報工学分野など、学問の分野によって使用されるスタイルが異なります。それぞれのスタイルについて書き方の例を見ていきました。スタイルにより、例えば著者名をイニシャルで表記する場合やそうでない場合があります。

日本において使われるものに SIST 科学技術情報流通技術基準があり、論文作成の際にはこのガイドラインを参考にすることができます。

参考文献や引用文献の書き方に生徒たちは熱心に耳を傾けていました。みなさんのレポートには、どの形式で参考文献を書くかという決まりはありませんが、ちゃんと必要な情報が網羅されていることに気を付けて書いていきましょう。

2023年11月14, 21日 SSR (高校2年生) 授業 「北欧フィールドワークの説明、課題レポートの相互評価とリアクション」

今日の講座

- 北欧フィールドワークの説明
- 課題レポートの相互評価・リアクションについて



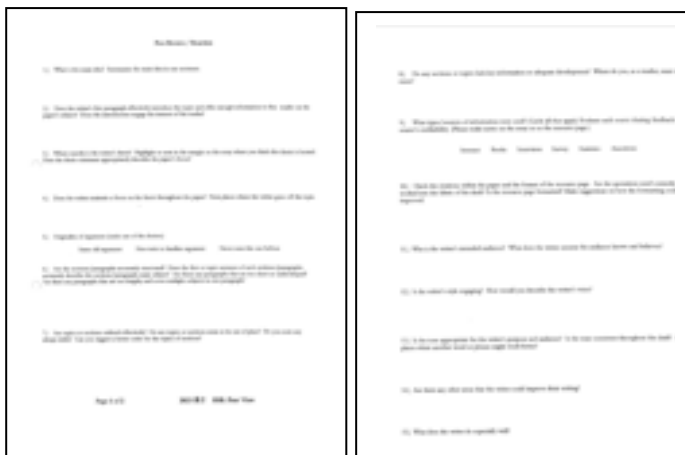
今日の講座の前半は、3月に出発予定の北欧フィールドワークについて帖佐教諭より説明がありました。この研修は、文部科学省 WWL 事業の一環として行われるもので、これまでまちづくりについて学んだ内容を実際に自分の目で見て、北欧のまちづくりや社会の仕組みについて理解し、そこから多くのことを吸収してもらうことを目的としています。参加は希望者のみとなりますが、この機会に実際に北欧を訪れてまちづくりについての見聞を広

げて行ってほしいと思います。

後半は11月の課題について説明があり、生徒たちはその課題に取り組みました。

【11月の課題】

課題で提出された個人レポートを相互評価します。クラス全員の無記名のレポートを読み、配布された相互評価・リアクションシートの15項目に評価内容を記入し提出します。



レポートの問題提起、論拠の説明、構成、参考文献の記載等、多項目にわたり評価をします。これまでに習得したリサーチスキルやアカデミックスキルを大いに活用するときです。またクラスメイトのレポートを読んで感じたことをこれからの自分のレポートに反映させましょう。

2024年1月23日～2月13日 SSR（高校2年生）授業「ワーク:なぜなぜ分析の練習」

資料：ワークシート 3-01～03

3学期に入って1回目の講座です。今日の講座は、冬休み中に先生や生徒が訪れたまちで見たこと、感じたことをみんなで共有することから始まりました。コペンハーゲンにある両親宅に帰省した生徒、普段は海外に住む両親の帰国に合わせて東京方面を訪れた生徒、地元の関西でゆっくり過ごした生徒。様々なバックグラウンドをもつ同志社国際高校生ならではのやりとりを聞くことができました。

今日の講座

- 冬休み中に訪れたまちの話
- ワーク1 なぜなぜ分析の練習
- ワーク2 問いを作る練習
- ワーク3 問いを深める



今日は「なぜなぜ分析」の練習と、問いを作る練習に取り組み、個人レポートの探究テーマを検討するためのヒントを得ます。

● ワーク1 なぜなぜ分析の練習

なぜなぜ分析とは？

なぜなぜ分析はトヨタ自動車の業務改善の中で開発された手法です。問題の表面的な部分を見て対症療法をするのではなく、問題の原因を深掘りして対処することで、根本的な改善を目指すものです。ある問題について「なぜ？」の問いを繰り返し、最終的にたどりついた理由に対して、実行可能な解決策を考えていきます。

なぜなぜ分析をレポート作成に応用し、テーマの検討や設定に役立てます。



なぜなぜ分析はどややるの？

1. 分析したい課題を具体化する。
2. 課題に対して「それはなぜ？」と問いかけ、その理由（あるいは原因）を考える。
3. これを5回くり返す。
4. たどり着いた真の理由（原因）に対して、実行可能な解決策を考える。

● ワーク2 問いを作る練習

2学期に書いたレポートの内容を振り返り、その中から問いになりそうなことを抜き出します。さらにその問いの中から調べても簡単には分からなさそうなことを選びます。

● ワーク3 なぜなぜ分析を応用して「問い」を深める

ワーク2で扱ったもの、または関連して調べる中で新たに考えたものの中から、わからないことが残っているものについて「なぜなぜ分析」をします。なぜこうなるのか、だけではなくどうしてこうならないのか、とつないでいくこともできます。

【練習】

身の周りのことになぜなぜ分析をやって記録する。分析の起点は日々の生活の中で目にする事耳にすることの中から選ぶとよい。



生徒のなぜなぜ分析の紹介：

課題：部屋の片づけが苦手で探し物がしにくい。

- Q. なぜ探し物がしにくいのか？
- A. ものが多くて、部屋の大きさに見合っていないから。
- Q. なぜものが多いのか？
- A. ストック品や2つ以上同じものをもっているから。
- Q. なぜ同じものをもっているのか？
- A. 常に余裕を持ちたいから。
- Q. なぜ常に余裕を持ちたいのか？
- A. ぎりぎりで過ごして足りなくなり、いざという時にそれがないと安心できないから。
- Q. なぜぎりぎりだと安心できないのか？
- A. 心配性の母の影響で小さい頃から何でも前々から準備しておく癖がついているから。

課題：今年はカメムシを多くみる。

- Q. なぜ今年はカメムシが多く見たのか？
- A. たくさんカメムシが生まれたから。
- Q. なぜたくさんカメムシが生まれたのか？
- A. 彼らにとって過ごしやすい環境だったから。
- Q. なぜカメムシにとって過ごしやすい環境だったのか？
- A. 気温が長い間温かかったから。
- Q. なぜ気温が長い間温かかったのか？
- A. 地球温暖化の影響で各地の温度が上昇していたから。

課題：日本で少子高齢化が進んでいる。

- Q. なぜ少子高齢化が進んでいるのか？
- A. 子供を持ちたい人が減っているから。
- Q. なぜ子供を持ちたい人が減っているか？
- A. 晩婚化が進んでいるから。
- Q. なぜ晩婚化が進んでいるのか？
- A. 女性、男性共にキャリアを優先したり、ひとりで生きている方が生きやすいと思うから。
- Q. なぜキャリアを優先するのか？
- A. キャリアを生きがいにしたり、優先しないと生活ができないから。

→なぜ少子高齢化が進むかという質問から始まり、キャリアを優先して自分の生活を営むために子供は必要ないと考える人が多いのではないかとこの要因を推測しました。

社会問題から身の周りのことまでいろいろな課題が挙がりました。例えば、カメムシが多い問題については、地球温暖化が理由でカメムシが増えることを実証できたらそれが一つの研究になりえます。このように「なぜなぜ分析」をすることで、ふとした疑問から普遍的な問題やテーマが導き出されることがあり、また課題の解決につなげていくこともできます。このようにテーマの導き方のひとつとして、なぜなぜ分析を活用することを学ぶことができました。

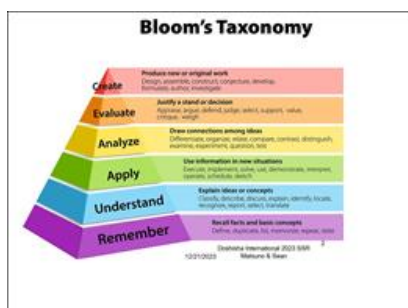
2024年2月6日 SSR（高校2年生）授業 「Academic Writing Presentation」

次に山田教諭より Academic Writing Presentation について講義を受けます。

2学期の講座で学んだ Bloom's Taxonomy を振り返ってみましょう。これまで私たちは既存の知識について自分の意見を出し、論題やトピックを挙げて内容をまとめ、自分の言葉に言いかえて、皆で共有してきました。私たちはこの既存の知識から新しいもの（知識、アイデア）を生み出す



(Create) 段階に移っていきます。この段階において、私たちが自分の考えを伝え、説得するために必要となるのが、アカデミックライティングスキルです。これから、このスキルを身に付けるためのトレーニングをしていきます。ブックリサーチ、フィールドリサーチ、学術論文を読むことを通して、そこから新しいものを生み出し、発表をして広いコミュニティの中で共有していくことは少しハードルが高いかもしれませんが、みんなにはできる力があると信じています！



【Academic Writing についてのグループディスカッション】

アカデミックライティングは

- ① トピックを選ぶ
- ② アウトラインを作る・リサーチをする
- ③ イントロダクションを書く
- ④ プレゼンをする

という手順で進めていきます。みんなで輪になり、それぞれの手順について出された質問にデ

ィスカッション形式で考え、意見を出していきます。まずは学術的な研究論文を書くための



基本的な情報について話し合いました。

Q. なぜブレインストームをするのか？

A1. 箇条書きで書くときと、Brainstorm で書いたときに情報量の違いが出てくるため。

A2. 頭で考えて文章に書くよりは、思いうかんだ言葉を出していくことでつながりを見つけることができ、頭の整理にもなるため。



Q. なぜアウトラインを書くのか。

A. 流れがわかるように、段階を踏んで自分が最終的に何を言いたいのか明確にするために、また頭を整理するためにアウトラインを作る。

Q. レポートと論文の違いは何か。

A. レポートは、授業でやったことや既に公になっていることについて書かれているもの。論文は、例えば外国ではうまくいっている政策が日本でもうまくいくのか、まだそれに関する情報がなかったり、それについて証明ができていなかったりすることについて論証するもの。

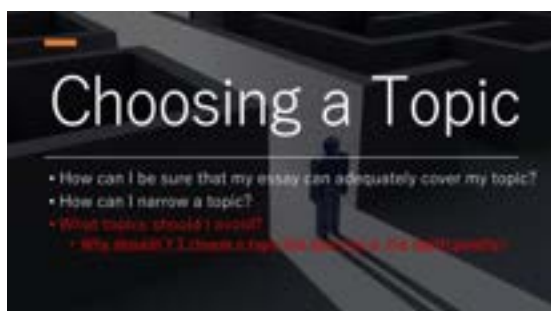
文は、例えば外国ではうまくいっている政策が日本でもうまくいくのか、まだそれに関する情報がなかったり、それについて証明ができていなかったりすることについて論証するもの。

Q. なぜ私たちは研究論文を書くのか。

A. ものごとをよく考え、論理的にとらえられるようにするために書く。書くことが目的、読むことが目的ではなく、書くことや読むことによって頭で考え、考えたことを共有するために研究論文を書く。



次に、トピックを選ぶにあたって疑問となることについて話し合います。



Q. どのようにしてトピックを選んだらよいか。

教員：例えば宗教的な考えによって答えが変わるもの、解決策が見つからない中絶や死刑などのトピックは避けられるべき。また広く一般的な課題や異論が多い課題にならないように気を付けるとよい。

SSR 講座のテーマは「持続可能な都市デザイン (Sustainable Urban design)」です。自分
が取り組んで面白いと思えるテーマを見つけましょう。論文を書くためには長い時間を費
やします。そのような論文を書くことに慣れていくことも大切です。

Q. どのようにして課題に関連する情報を入手したらよいか。

A. Google, Chat GTP, 親と話す、本を読む。

教員： リサーチを進めるためのツールは大きく
変わってきており、AI の出現によってリサーチの
プロセスはさらに変化している。



Q. 情報を収集するために、なぜ SNS は効果的
ではないのか。

教員： インスタグラムなどの SNS はバンドワ
ゴン効果が起こりやすい。そこで支持された情報が
正しいとは限らない。また情報の信ぴょう性には注意をする必要がある。

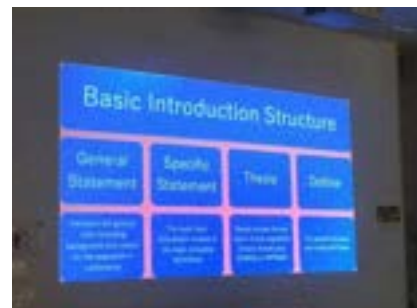
Search Engine はなぜ Google ばかり使うの？ Google はスクリーンタイムを長くするた
めの戦略もある。また広告を見てもらうために、読みやすい文章で情報を掲載し、それを拡散
してもらうこともできる。

Q. 広告などにとらわれない、検索エンジンの会社が利益を追求しない検索エンジンを知っ
ているか。

教員： Brave, Lionhead の検索エンジンがある。しかし、利用者が少ないため経営は難し
い。Academic writing においては正しい情報の伝達が重要。読みやすさは求められない。

【ディスカッションを終えて】

SSR 講座の生徒 6 人が輪になり、自分たちの考えを
アウトプットし、教員やクラスメイトの意見に耳を傾
けて有意義なディスカッションタイムをもつことがで
きました。これからテーマを決めてリサーチをし、アカ
デミックライティングを進めるための新たな気づきが
得られたのではないのでしょうか。これらを活かしてテ
ーマを決め、来年度 SSD (Sustainable Society Design)
のクラスでリサーチを深めてそれぞれの成果を発表してほしいと思います。



024年2月20,27日 SSR（高校2年生）授業「探究テーマの検討と報告」

資料：ワークシート 3-04~06

高校2年生の SSR 最後の課題は「探究テーマの検討と報告」です。今日はこの課題について教員より説明を聞き、取り組みはじめます。今年度最後の授業では自分が選んだ探究テーマを発表形式で報告し、クラスのみんなからフィードバックをもらいます。

● 課題「探究テーマの検討と報告」の説明

課題は3段階に分かれます：

- 1) まちづくりに繋がりそうなテーマを設定
- 2) 発表してフィードバックをもらう
- 3) 内容をレポートにまとめる



● まちづくりにつながりそうなテーマの設定

早速生徒たちはテーマ探しの作業にとりかかります。ホワイトボードに書き込んで考える生徒、パソコンとにらめっこをしている生徒、積極的に教員に相談をする生徒。これから3年生の終わりまで、長い時間をかけて仕上げていくレポートです。テーマは時間をかけてじっくり検討し、設定していきます。



● テーマの発表とフィードバック

学年最後の授業時間を使い、それぞれが選んだテーマとそのテーマについて現時点で分かっていることを発表します。生徒たちにはフィードバックシートが配られ、それぞれの発表についてよかったところや改善点などを書いて発表者に渡します。

【Hさんの発表】

テーマ：奈良の観光をもっと活性化させるためには？

奈良の観光地を訪れて、他の観光名所よりも人が少ないことに気付きました。他の観光スポットが取り組んでいることを参考にしたり、地域の活動や特徴を公共の場で発表する等を提案することによって奈良のまちを活性化させ、観光客が増えるようにすることがこのテーマに取り組む意義です。また、観光を通じてまちのひとたちの団結力やまちに対する関心（シビックプライド）が高まることも期待しています。



【Tさんの発表】

テーマ：外国人労働者

日本には外国人労働者が多い。特に技術実習生や特定技能外国人など賃金の低い外国人労働者やその家族は、地域における防犯問題などで、近隣の人々から偏見を持たれていることがあります。まちづくりをする上で外国人労働者やその家族と地域の関係について調べ、外国人労働者が多いまちの政策や歴史を地域ごとに比べて、よりよいまちづくりができればいいと思います。



【Tさんの発表】

テーマ： 第一次産業を活性化させるためには？

旅先で地産地消のセレクトショップを見て、日本における第一次産業の生産について調べようと思いました。高齢化のため国内の農業、漁業、林業の生産量は減少傾向にあります。高齢化が進んでいても第一次産業が発展している国の政策、効果や問題点を調べ、新しく政策を考えてみます。例えば第一次産業のイベントを開催して若い世代に興味を持ってもらい、将来の道の一つとして考えてもらうことにより少しでも変化をもたらすことができたらいいと思います。



【Yさんの発表】

テーマ：空き家問題について

私は京都市在住で、周りに多くの空き家を見ます。世界的にみても、日本の空き家率は一位であり、地域の不活性化につながります。空き家のまちへの影響を調べ、空き家減少につなげたいです。取り組み方法としては、現在の空き家問題に対する既存の対策を調べて、その対策の足りない要素や改善できるところに自分の考えを発展させたいです。無駄のないまちづくりに貢献できる効果が期待できます。



【Yさんの発表】

テーマ：奈良市ではどのようにして自転車の利用を増やせるか？



海外で自転車の利用が促進されているまちを見て、まちづくりとして日本は自転車が乗りにくいところがあることに気がきました。中でも奈良市には自転車促進プランがないため、場所を西大寺に絞ってプランを作り、自転車利用者を増やし、利用しやすい環境作り、地球温暖化や空気汚染の改善、より健康的な社会の形成をしていきたいと考えます。作成した自転車促進プランは奈良市役所に提案することも検討しています。

【Aさんの発表】

テーマ：まち中にある木や花壇の効果について

通りがかりで見た木々や花壇にクリスマスのライトアップがされているのを見て、それらの効果について知りたいと思いました。まちのイメージアップ、地域の人々の間でコミュニケーションを増やす効果もあり、いいまちづくりに繋がります。地域の人々が花壇を植えることによって交流の場となり、また人を楽しませる効果もあります。自分で回りにある花壇からどういうことを感じたか、自分自身で体感したいと思います。



発表後、それぞれのテーマに対して質疑応答の時間を設け、積極的に話し合う場面がありました。教員からのコメント、他の生徒から改善点等のフィードバックをもらい、これからのリサーチに役立っていきます。生徒たちはこれまでのレクチャーやディスカッションを通じて真剣に考え、興味深いテーマを選んでいたので印象的でした。来年度はさらにリサーチを進め、アカデミックライティングを実践してレポートを完成させていきます。